

2026年04月07日（火）【外為L a b】松田哲

タイトル：【引き続き、トランプ大統領に注目】

引き続き、トランプ大統領の行動、発言に注目するしか無い。

現時点では、以下の合意がなされるか、否か、がポイントになっている。

「イランがホルムス海峡の開放で合意しなければ、発電所や橋を攻撃する。
その期限については、4月7日午後8時（日本時間4月8日午前9時）とする。」

しかし、トランプ大統領は、何度もその期限を延期するなど、その対応をコロコロと変えるので、安易にトランプ大統領の発言を信じることもできない。

マーケット（金融市場、株式市場、外国為替市場など）は、その都度、トランプ大統領の発言によって変動するので、不用意にリスクを取ると、不必要な損失を出すことになってしまう。

つまり、トランプ大統領の発言は、その場しのぎに過ぎず、その時の情勢に伴い、コロコロと変わる。

誠に、困ってしまう。

+++++

さらに、トランプ大統領は、ホルムス海峡の安全確保に関して、
「日本は、米国を助けなかった」
と、名指しで不満を表明した。

この不満の表明は、日本だけではなく、韓国とオーストラリアにも向けられている。

しかしながら、米国は、イランに対して、正式な宣戦布告をした訳ではないので、同盟国だからといって、何でもかんでも米国の「戦闘」に対して、協力できるはずもない。

トランプ大統領の発言は、単なる「言いたい放題」であって、現状が、トランプ大統領の思惑通りに運んでいないことに対して、日本や韓国、オーストラリアに、フラストレーションをぶちまけたに過ぎない。

言い換えれば、一種の「八つ当たり」である。

それでも、米国の大統領の発言だから、無視する訳にもいかない、ということが現実なのだろう。

+++++

まずは、ホルムス海峡の開放が成されるのか、否か、その期限である、4月7日午後8時（日本時間4月8日午前9時）を待つしかない、と考えています。

ただし、再度、延期する可能性も否定できない、と判断しています。

+++++

大局で見ると、トランプ大統領の方が、追い詰められている、と考えます。

トランプ大統領は、既に一回延期した中国への訪問など、様々なスケジュールが控えているのだ、と考えます。

トランプ大統領が、中国に再度の延期を依頼するのも、大国の外交としては格好が悪いように映ります。

このイランへの戦闘に関しての米国議会の承認なども期限が迫っている、と考えます。

トランプ大統領にしてみれば、早期に決着できると考えて、イランへの「戦闘」を開始したのでしょうか、トランプ大統領の思惑は、完全に外れた、と考えます。

+++++

繰り返しになりますが、引き続き、トランプ大統領の行動、発言に注目するしか無い、と考えます。

残念ながら、それが、マーケットの最大の関心事である以上、その状況に従うしかない、と考えます。

+++++

+++++

(2026年4月7日東京時間16:10記述)